

「第1回なすかしの森ファミリーチャレンジ」

～なすかしの森で七夕を満喫しよう～ 報告

実施日：令和元年7月6日（土）～7月7日（日）

【目的・趣旨】

幼少期から中学生期までの体験が多い高校生ほど、思いやり、やる気、人間関係能力等の資質・能力が高いことや、体験が豊富な子供ほど読む本の冊数が多いという割合が高いこと等が、調査研究において明らかになっている。このような調査研究を踏まえ、当施設では、幼児・小学生・中学生を含む家族を対象に、体験活動を通して親子の絆を深めつつ、今日的な課題への意識付けを行ないながら、利用者が「参加して良かった。また参加したい」と思えるようなプログラムを提供する。令和元年度第1回目は、那須甲子の自然環境を活かしながら、七夕のプログラムを通して日本の伝統を学ぶ。



【連携先】

西郷たいけん隊（9名）：チャレンジ炊飯（竹と笹の加工）の指導

福島大学生ボランティア（7名）：プログラム補助

【募集対象／実績】

《募集対象》幼児または小・中学生の子供を含む家族 40家族80名程度

《実績》20家族60名申込み、18家族55名参加

【プログラム概要】

【1日目】令和元年7月5日（土） 天候：曇り

12：30～13：30 受付 [正面玄関]

13：30～14：00 出合いのつどい [エコルーム2]

「ようこそ！」というおもてなしの気持ちを参加者へ伝えるため、ウェルカムボードを18家族分手作りし、テーブル机の上に配置した。席順は敢えてホワイトボードなどに表示せず、自分たち宛てのメッセージが書いてあるウェルカムボードを探してもらいながら着席してもらうことで、宝探しのようなドキドキ感を味わってもらった。

14：00～16：00 七夕飾り作り [エコルーム2]

- ・七夕飾り用の笹は乾燥しやすく枯れやすいため、用意した笹は乾燥しないように野外の藪の中で保管することで、当日は青々とした笹を使用することができた。
- ・プログラムの最初の時間を使って、あらためて「七夕」とはどんな日なのか、七夕飾りや短冊の色にはどんな意味があるのかを学生ボランティアに発表してもらい、参加者へ七夕についての理解を深めた。七夕飾り作りや飾り付けでは、各家族ごとに工夫した点やアピールポイントを発表してもらった。
- ・笹には、名前を記入した木ホルダーを飾り付けて、どの家族のものか分かるように工夫した。
- ・七夕飾り作りでは、従来の七夕飾りにこだわることなく、自由に飾り作りと飾り付けを行っても

らうようアナウンスした。特に子供達は星形や複雑な図形の短冊や、将来就きたい職業（警察官）や、アニメのヒーロー等のコスプレをした織姫と彦星を作ったり、ユニークな発想で七夕飾り作りと飾りつけを楽しんだ。

17：00～17：15 タベのつどい [プレイホール]

17：20～18：00 夕食 [レストラン]

18：00～18：30 入浴 [大浴場・中浴場]

19：30～20：00 天の川・星空観察 [キビタルーム]

- ・当日は曇ってしまったため、野外で天の川を観察することはできなかったが、雨天の場合に備え、事前に当所のD営火場で見ることができる天の川を写真撮影しておき、当日に各家族に配布することで、実際にはどのように見えるのかを体感してもらった。
- ・プロジェクターを使いながら「天の川はなぜ川に見えるのか」「天の川はどうやってできるのか」などを研修指導員の大竹先生に教えてもらいながら、みんなで学んだ。

22：00～ 就寝 [宿泊室]

【2日目】令和元年7月6日（日） 天候：曇り

06：30～ 起床 [宿泊室]

07：00～07：15 朝のつどい [プレイホール]

07：20～08：00 朝食 [レストラン]

09：00～12：45 チャレンジ炊飯 [エコルーム2]

七夕にちなんで竹を使ったプログラム「竹筒ご飯炊き」を取り入れた。家族ごとに竹の加工から直火を使っての炊飯とカレーとフルーツポンチ作りを行った。子供達は親子で協力しながら竹をのこぎりやノミで加工したり、火をおこしたりと、普段家庭では体験することができないことに挑戦した。

13：00～13：30 別れのつどい [エコルーム2]

2日間を振り返ってどのように感じたかを希望者に発表してもらった。時間の都合上、2、3人から聞き取る予定であったが、子供達が次から次へと挙手して「楽しかった。また来たい」と言ってくれた。当事業のテーマ「利用者が「参加して良かった。また参加したい」と思えるようなプログラムを提供する。」を達成することができた。

13：30～ 解散

【成果】

地元の民間団体「にしごう体験隊」（以下、「体験隊」）に依頼し事業開催までに事前打合せを3回実施し、準備段階から連携を図った。

<第1回 6/1> 「体験隊」の定例会に出席し、事業の概要を説明した。

<第2回 6/18> 竹を使った米炊きとパン作りの試作をし、チャレンジ炊飯のメニュー決めをした。

<第3回 6/30> 七夕飾り作り用の笹を調達と事業当日の流れ確認した。

全3回の打合せを通して事業当日だけではなく事前準備やプログラムの企画段階から携わってもらった。「体験隊」には事業1日目は4名、事業2日目は8名に参加いただいた。

<参加者のコメント>

「思っていた以上に七夕飾り作りに夢中になれた。様々なプログラムを通して七夕を満喫できた」

「参加する前は子供が参加を嫌がっていたが、帰る頃には「また来たい！」と言っていた」

「普段、竹を切る体験などできないので、いい経験になった」

「様々な年齢の方と接することができ、非日常を体験することができた」

【課題と方策】

開催日両日とも天候に恵まれず、天の川・星空観察を野外で実施することができなかったため、ア

アンケートで「星空観察ができなくて残念だった」などの意見が見受けられた。今後は「雨でもできる外遊び」のプログラムを企画するなどして、参加者の期待に応えたい。

国立那須甲子青少年自然の家 [作成] 事業推進係：湯川 枢

チャレンジ炊飯



竹筒で炊きあがったご飯



七夕飾り作りと飾り付け



ボランティアが作った七夕説明資料

